九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

邦領樺太北部幌登山に於けるエゾマツ、トドマツ一齊林の成立に關する考察

田中, 祐一
九州帝国大学演習林助手

https://doi.org/10.15017/14205

出版情報：九州帝国大学農学部演習林報告. 6, pp.1-106, 1934-06-30. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

數木的倒壞を生じた區域とによつて甚だしく其林型を異にし、前者では比較的廣面積(0,5～15 陌)に一齊林が更新されて居るが、後者の場合では小面積(0.1～0.5 陌)に更新されて樹冠層は複雜となり年齢の配置も廣範圍に亘つて擇伐林型に近くなつて居る。

而して比較的廣面積に更新された壯齢林にトドマツの混淆多く、小面積に更新された壯齢林にはトドマツの割合は少なくエゾマツの多いのは、一時的急激な疎開のために充分な陽光と腐植土の分解進みたる土壤上によくトドマツが生立する性向あるがためである。

山麓丘陵地で擇伐林型を呈することの多いのは平地林よりも比較的強い風衝地域となり、老齢上木の倒壞されるもの多くして自然に擇伐的に局部的疎開を生ずるためである。

(VII) 摘 要

以上各種の調査及觀察より考察して次の如き結果を得らるる。

(1) 本山岳林一帶ではエゾマツ、トドマツ林は海拔高 600～700 米の高度に及んで其面積は山岳地帶面積の約 40 % となつて居るが、將來施業の對照となし得る森林は海拔高 400～500 米の高度以下の生長力の猶相當に存する地域に限られて、面積に於ては山岳地帶面積の 30～35 % に過ぎぬ。

(2) 山岳地帶に於けるエゾマツ、トドマツは風による老齢上木の倒壞後、前生樹による更新が大部分であつて、又老齢上木の倒壞後に新に成立したエゾマツ、トドマツも多數ある。

老齢林が暴風によつて一時的急激な比較的大面積の倒壞を生ずる時は、一齊林となりトドマツの混淆歩合多く、單木的な小面積の、長期間の倒壞は擇伐型の森林となつてトドマツの混淆歩合は割合に少なく、エゾマツを多く混ずる。

(3) 山岳地帶では常風及暴風方向は谷筋の方向に轉向されて、風による倒壞被害は中腹地帶、谷筋、丘陵、地形線の屈曲點等に多い。

(4) 本地方は平均風向及暴風方向は北を主として僅かに西及東に偏る。而して山岳林地帶では風向を著しく轉向して西偏りとなり、地形的には谷の上部から下部へ吹く暴風による倒壞が生ずる場合が多い。故に將來の山岳林施業に於ては伐採方向と林緣保護は谷及丘陵地の方向に鑑みて地形の上方から下方へ向ふ風害に對する保護を必要とする[1]。

(5) 作業種は風害に對する抵抗の最も强いもの[2]にして更新可能な點より考慮して擇伐作業を可とする如くである[3]。

1) 植村博士；森林經理學 437 頁

2) Heß-Beck; Der Forstschutz. S. 309.
Dankelman; Die Decmember-Stürm des Jahres 1868 innerhalb der Preuißischen Staatsforsten. Zitsch F. u. Jagd 1871. 343.

3) 植村博士；原生林か擇伐林か、林學會雜誌 第十三卷 第五號